

## はじめに

望月 楓太郎 (@mochi\_law)

### 1 本教材の目的

会社法は、条文の複雑さ・イメージのしにくさから、苦手としている学生の方が多いように思います。そのような学生の方にも、会社法の面白さをぜひわかっていたきたいです。

ただ会社法の論点を解説する講義というものとどまらず、受験生の皆さんに会社法の体系・仕組みを理解していただく講義にしたいと思い作成しました。

そのため、初学者（会社法を軽く1周勉強された方）から上級者（司法試験受験生の方）まで、幅広い方に使っていただけると幸いです。

### 2 本教材の特徴

- ①論点の網羅性（重要論点から末端論点まで網羅している）
- ②内容の正確性（1つ1つ様々な文献で調べ、参照文献も記載している）
- ③様々なまとめ（重要論点については、類型化してまとめている（例えば、間接取引に該当する類型・該当しない類型等）。また、受験生が混同しそうな論点については、講義の中で注意するよう言っています。）
- ④判例・通説がベース（もっとも、重要な反対説については本文で、重要度の低い反対説については脚注で紹介している。）

### 3 本教材の使い方

#### (1) 本教材の記載内容

- ①論点→A+, A, B, Cにランク分け
- ②条文知識・基礎知識
- ③脚注（問題を解くうえで重要な事項・反対説の紹介）

#### (2) 学修程度による使用方法

- ㊦初学者 →①のA+, Aを復習する。①のBと②を理解する。①のCと③は読み飛ばす。
- ㊦中級者 →①のA+, A, Bを復習する。①のC, ②を理解する。③は気になったら読む。
- ㊦上級者 →①をすべて復習する。②は理解する。③は、読んだ上、重要性に応じて覚える。

#### (3) やってほしいこと

出てきた条文（余裕があればその周辺条文）については、面倒かもしれませんが、1つ1つ調べて頂きたいです。

日頃から条文を見ておかないと、いざテストの時に条文を見つけることができません。また、出てきた条文やその周辺条文を読むことで、新しい発見があったりしますし、また会社法の体系・仕組みの理解につながることも多いです<sup>1</sup>。

---

<sup>1</sup> 久保大作・森まどか・榎素寛・松中学「ひとりで学ぶ会社法」（有斐閣，2018年）263頁〔松中〕でも、「ある条文の1項には気づいても、2項以下に気づかない学生は意外と多い。また、新株発行のように続く条も読まないと全体が分らないものもある…。条文を確認するのは教科書などを読むついで、という感覚なのかもしれない。どうせある条文を確認するなら、けちけちせず最後までじっくり読もう。そして、前後を眺めておこう。最初は時間がかかる。しかし、その時間を節約しても、後で高くつくだけである。」とされています。